

★*...—————...*★

メールマガジンで語り伝える

「今を生きるスターリィマンの物語」～感謝の風船レター～

2015.8.19 vol.68

★*...—————...*★

☆ご あ い さ つ☆

残暑お見舞い申し上げます。

厳しい暑さと天候不良が続きますが、
皆様、お変わりございませんか？

旧盆が過ぎ、夜になると我が家の庭先でも
コオロギの鳴く声が聴こえてくるようになりました。
少しずつ秋の気配を感じられる季節になりましたね。

さて、今年は戦後70年の年。

8月15日の終戦の日を迎えるにあたり、
原爆投下の広島、長崎を始め、
各地の戦争を語り継ぐ特集番組をご覧になり、
戦争や平和について深く考えられた方も多いと思います。

私も様々な番組を観ながら、私自身の身近な戦争について思いを馳せました。

私の父の兄・伯父は、海軍兵で
昭和17年にソロモン沖で戦死しました。

幼い時から、よく祖母や父から
戦争で亡くなった伯父ことは聞かされていて、
同時に、戦争で子を失くした親の想いや
遺された兄弟や家族の想いを
子どもながらに受け止めていたように思います。

また、当時旧制中学に通っていた父は
茨城の実家の近くには霞ヶ浦の予科練があり
毎日、片道20キロかけて、爆撃の鉄砲の弾造りの奉仕をしていたり、
帰路の途中でB29の砲撃に何度もあった話を
たびたび聞かせてもらいました。

そして、そんな戦争を乗り越え、
命をつないでくださったご先祖様に
毎日、手を合わせて感謝することが当たり前でした。

直接、戦争を体験された方のお話を聞くことが
なかなか難しくなってきた昨今。

今思い返すと、戦争の恐ろしさ、平和の尊さを
幼い時から直接教えてもらえたことが、
本当に有り難く、貴重なことだったのだと改めて感じます。

そんな思いを込めて、第23話の
「今を生きるスターリイマンの物語」は、
戦後70年・特別編として、
戦中・戦後と命懸けで日本の心をお守りした
スターリイマンのお一人をご紹介します。と思っています。

是非、最後までお読みいただけましたらとても嬉しいです。

★*...—————*★

戦後70年・特別編
第23話「今を生きるスターリイマンの物語」第1章
～戦中・戦後を宮内庁一筋60年に生きた石川忠氏の軌跡～

★*...—————*★

2008年、私はある一冊のご本をいただきました。

それは、『宮内庁一筋60年
昭和、平成と2代の天皇陛下に御仕えして
卒寿を御迎えられた「石川忠先生の軌跡」』と
金文字で書かれた立派なご本で、
石川氏の3女である牧子さんからいただきました。

牧子さんとは、私達が家族3人で
スターリイマンの活動を始めた2006年に、
とある会で出会い、それからずっと変わらずに、
私たちが心から応援してくださっています。

ご本をいただいた年の夏。
お父様の石川氏はご病気で入院されていて、
牧子さんはお父様の看病のために、
牧子さんのご自宅のある大宮から
入院先の京都へ頻繁に通われておりました。

これはとても不思議なご縁で、
私の母の命日にあたる7月12日が、
石川氏のお誕生日だったので
私も何度かお見舞いのお品を
牧子さんにお持ちいただきました。

そして、石川氏がお亡くなりになるちょうど一ヶ月前。
石川氏の101歳のお誕生日プレゼントを
牧子さんにお渡し致しました。

その後、看病からお帰りになった牧子さんから
是非、芳見さんにお持ちいただきたいのですと
贈っていただいたのが先ほどご紹介したご本でした。

このご本は、石川氏が卒寿を迎えた時、
宮内庁勤務60年の業績を讃え、
京都の有志の方々がお作りになり、
天皇陛下にもご寄贈された記念誌 だそうです。

私はそんな貴重なご本を！と思いながら、
感慨深い気持ちでご本を開きました。

そこには、京都御所にご来臨された
昭和天皇陛下、皇后陛下、
皇太子殿下ご夫妻、三笠宮殿下ご夫妻、
高松宮殿下ご夫妻などの皇室の方々を始め、
エチオピア皇帝陛下、イラク皇太子殿下、
インドネール首相、イランパーレビ皇帝陛下、
ニクソン大統領ご夫妻、フォード大統領、
エリザベス女王陛下、ご夫妻など
海外からの国賓をお迎えされている
石川氏の姿の立派なお写真がありました。

もうそれだけでも驚きましたが、
その上、石川氏の偉業を拝読させていただき、
このような方がいらしたんだ！と
ただただ感謝感動で胸がいっぱいになりました。

数々の偉業の中で、私が一番感動したお話を
皆様にご紹介させていただきたいと思います。

昭和20年8月15日正午。
天皇が終戦の玉音放送をされましたのは、
皆様、ご存じのことでしょう。

しかし、その前日の夜に、
近衛兵の若い将校たちが
玉音放送の録音盤を奪うために、
宮内省地下室を襲った事件がありました。

その時、石川氏は命がけで
玉音放送の録音盤をお守りしたそうです。

つまり、石川氏がいなければ、
8月15日の玉音放送はありませんでした。

その時のことが以下のように
この本に記載されていました。

昭和20年8月、太平洋戦争がまさに終わらんとする前夜、
石渡荘太郎宮内大臣の秘書官だった（石川）忠は、
そこで、世紀の大事件に遭遇した。

昭和20年8月15日正午に天皇が終戦をラジオによって
全国に向けて放送されたが、
これよりさきの8月10日深夜の御前会議（閣議）において
ポツダム宣言の受諾（終戦）が決定していた。

しかし、そのことを、全国民に対し、
ラジオで天皇自らの声で知らせる計画については、
ごく少数関係者の間に、前もって極秘事項として
了解されていたのだった。

このことは、側近の宮内大臣石渡荘太郎を中心として
発議されてものだった。

8月14日午前、皇居吹上御苑の

大奥防空壕内で開かれた御前会議において、

陛下は進んで

「この際、私としてなすべきことがあれば何でもいとわない。
国民に呼びかけることがあれば、私はいつでもマイクの前に立つ」
と発言し、鈴木総理以下を感泣せしめたといわれる。

そして、かつてない天皇の肉声による

全国民への呼びかけとなったのだった。

8月14日の夜11時20分ごろ、宮内省の3階にある

陛下の執務室で2回放送が行われ、録音盤が作られたのだった。

録音に立ち会った情報局総裁の故下村海南の意見で、

録音盤は宮内省に保管され、15日放送の時に、

改めて放送局に引き渡すことになった。

これが、結果的には録音盤が難をまぬかれ、

放送の実現となるわけだから、まさに天佑だったのである。

録音が終わった深夜、玉音放送計画をいち早くキャッチし、

一億玉砕、徹底抗戦を叫ぶ近衛師団の一部青年将校が

第一師団の一部先鋭分子と組んで、近衛師団長の森中将を殺害。

ニセの師団長命令を作り、皇居内に乱入した。

目的は録音盤の奪取であり、さらに親米英派と言われた

内大臣木戸幸一、宮内大臣石渡荘太郎の逮捕であり、

さらに外部との連絡遮断の非常装置を摂るためであったようだ。

当時、忠は石渡荘太郎官相の秘書官として

皇居防衛の防空担当員として、大臣とともに

日夜皇居に勤務する日々が続いていた。

石渡宮相と忠ら数人は、宮内省地下室で、

防空室で防空情報に耳を傾けていたが、

まだクーデター発生の事実はキャッチしていなかった。

8月15日の午前零時ごろ、宮内省地下の防空室に着剣した兵士10数人が乱入してきた。

「命令によって電話線を切断する」と防空連絡用の電話線を切って立ち去った。しばらくして、抜刀した将校が銃剣の兵2人とともに宿直室へ追いかけてきた。

もちろん、宮内大臣の石渡荘太郎を捜すためだ。終戦に反対する青年将校のクーデターである。

この反乱兵への対応に、気丈に立ち向かったのが石川忠である。

ただならぬ異変を感じた忠は、石渡に「これはただごとではありません。

逃避してはいかがですか」と進言し、関係官を伴い一階の高等官宿直室にかくまった。

石渡はクーデターの発生と皇居の閉鎖をいち早く直感し、忠に対し、「自分は55歳を過ぎ、人生に執着はない。覚悟ができています。しかし、君は若い（38歳）、家族も多いので、何とかして囲みを突き破って城外に出てほしい」と説得した。

側近首脳的全滅は耐え難いことだ、というのであった。

この一言に、忠は覚悟を決め、大臣の命運を一身に担って対応に立った。

反乱兵を3階に追いやり、すばやく石渡、木戸らを地下防空壕に隠し、夏の暑い夜を、反乱の鎮圧を祈りながら過ごしたのだった。

こうして一同逮捕をまぬかれ、やがて15日の新生日本の誕生を迎えたのである。

「元気な人間が己をむなしうして
他人に生きながらえることを説くことは、
凡人のよくするところではない」

忠には神の声にも似た響きがあった。

「日本の最も長い一日は経過し、
録音盤も安泰で、一同も逮捕をまぬかれた。
石渡宮相は、忘れ得ぬ偉人として、
今もなお脳裏に焼きついている。
というも、新生日本の曙光に浴せたのも、
石渡宮相がおられたからこそ…」

と忠は振り返る。

「今を生きるスターリィマンの物語」
☆戦後70年・特別編第2回は、8月29日(金)配信予定です！ ☆

戦後70年・特別編の第1回、
石川忠氏のお話はいかがでしたでしょうか？

8月15日の終戦の天皇の玉音放送の背景に、
このようなお話があったことを知り、
私は、公のための志を持っていた石川氏の偉業を
このような素晴らしいスターリィマンがいたということを、
一人でも多くの方にお伝えしたいと思いました。

そして、今の日本を支えてくださっていたことへの
感動と感謝を皆様と分かち合いたいと願いました。

石川忠氏の軌跡の続きは、次回またお伝えしたいと思います。

配信は、8月29日(金)です。
皆様、どうぞお楽しみにお待ちください☆

☆後 記☆

終戦の日の8月15日は、福島県郡山市の
「ビックパレットふくしま」で開催された
「絵本ワールドinふくしま2015」に
参加させていただきました。

子ども達やお父さんお母さんの笑顔に囲まれ、
平和を守ること大切さ、幸せな日々の有り 難みを
しみじみと感ずる一日となりました。

それでは、本日も最後までお読みいただきまして、
誠にありがとうございました。

残暑厳しき折、くれぐれもお身体をお大事にお過ごしください。

はせがわ芳見

☆はせがわ芳見 ブログ☆

blog : <http://starryman.cocolog-nifty.com/blog/>

発信元：はせがわ芳見

〒330-0851 埼玉県さいたま市大宮区櫛引町1-422-2

TEL/FAX：048-671-7708

HP： <http://www.dream-hasegawa.com>

blog : <http://starryman.cocolog-nifty.com/blog/>

★*...—————...*★

メールマガジンで語り伝える

「今を生きるスターリイマンの物語」～感謝の風船レター～

2015.8.29 vol.69

★*...—————...*★

☆ご あ い さ つ☆

8月も終わりに近づき、

随分、涼しくなってきましたね。

皆様、お変わりございませんか？

さて、今日から5日間、

福島と宮城で活動してまいります。

今日の夕方は、福島県福島市の清水小学校さんで

PTAさま主催の「親子映画会」で

スターリイマンの朗読をさせていただきます。

この映画会は、清水小学校さんに通う

児童の皆さんとそのご家族、

そして、地域の方々との親睦をはかる場として、

毎年、この時期に開催されてきたそうです。

このような温かく素敵な会に、

私たちをお呼びいただき本当に嬉しいです。

映画会の前には、PTAの皆様による模擬店が、

映画会の後には肝試しなども予定されているとのこと。

どんなひと時になるのでしょうか？

わくわく楽しみです☆

さて、今回のメールマガジンは、

前回に引き続き、戦後70年・特別編として、

戦中・戦後と命懸けで日本の心をお守りした

石川忠氏をご紹介させていただきます。

是非、最後までお読みいただけましたらとても嬉しいです。

★*...—————...*★

戦後70年・特別編

第23話「今を生きるスターリィマンの物語」第2章

～戦中・戦後を宮内庁一筋60年に生きた石川忠氏の軌跡～

★*...—————...*★

前回の第1章は、8月15日・終戦の日の前日に
天皇陛下の玉音放送の録音盤を命がけでお守りした
石川氏のお話をご紹介させていただきました。

第2章は、戦後のアメリカの進駐軍より、
京都御所をお守りしたお話をご紹介いたします。

大臣秘書官として、終戦を迎えた石川氏は、
戦後は皇室財産管理課長に就任しました。

「終戦を境に、天皇家並びに皇室の在り方、
位置付けはすっかり様変わりして、
政府や進駐軍との交渉時も含めて、
言葉に言い表せにほどの苦労がありました。

それもこれも新生日本の誕生を願ってのことですから、
激務の割には充実した日々を過ごしたのも事実です」

と、石川氏は当時のことを伝えています。

昭和21年の5月末。

第6軍司令官クルーガー中将により、

「京都御所の半分を、米軍将校の宿舎とするため接收する」
という命令が、京都府庁にもたらされました。

当時の京都府知事の木村淳氏は、急ぎ上京し、
宮内省の石川氏の元に、嘆願にやってきました。

進駐軍の命令は「泣く子もだまる」であるが、
石川氏は「それはいかん！何とか早急に手を打たねば」と
二つ返事で引き受け、木村知事には、
安心して帰ってくださいと帰宅させました。

ここから、米軍最高司令部に向けた
石川氏の直談判が始まったのです。

中・高校時代に柔道で鍛えた「反骨精神」で、
身を挺して司令部に日参する毎日が続きました。

石川氏は、マッカーサー最高司令官を訪ね、
こう言いました。

「京都御所外苑・建礼門前の数千本の松を切り払って
進駐軍宿舎を建設するというのはもってのほかだ。

それを強行すれば、景観は台無しになるし、
日本人の精神風土もメチャクチャに壊れてしまう。

それでも実行すれば、日本民族は
永久にアメリカを恨みますぞ！
日本人の心のふるさとを奪ったと言ってね...」

説得は一ヶ月間にも及びましたが、
石川氏の力強い、勇気に満ちた発言は
ついに米軍司令部の心を動かしました。

結果、京都御所の接收命令は撤回され、
米軍将校の宿舎は、洛北にある
現在の京都植物園内に建設されました。

米軍司令部大佐の名セリフが、
今でも昭和の歴史に刻まれています。

「日本に男あり、その名は石川忠という」

以後、日本人の心のふるさとである
京都御所を守った石川氏の名は、
宮内省だけではなく、国の内外にも
幅広く知れ渡るところとなりました。

しかし、これだけの大きな仕事を成し遂げても、
石川氏は少しも偉ぶるところがありませんでした。

弁護士の資格を持つ石川氏にとって、
「当たり前のことをしてだけです」と
むしろ謙虚で、手柄を自慢するの好みませんでした。

石川氏は、このようにもおっしゃっています。

「スポーツマン精神で、当たって砕ける！
の思いが通じたんだと思います。

その時、自分でも理解できない不思議な力が、
身体の中に入ったのかも知れません。

自分の力を信じてはいましたが、
もちろん一人では何もできませんし、
神がかりという言葉がありますように、
日本人の魂、庶民の声なき声が私に乗り移り、
相手を説得できる力強い訴えに結びついたのかもしれない。

本当に、その時の力は、神技としか呼べないような
自分を越えたものだった、ととらえています。」

そして、昭和27年。
石川氏は、宮内庁京都事務所長に命ぜられました。

さらにここから、日本の発展に寄与する
石川忠氏の偉大な功績が残されていったのでした。

「今を生きるスターリイマンの物語」
☆戦後70年・特別編 第3回は、9月9日(水)配信予定です！☆

戦後70年・特別編の第2章は
いかがでしたでしょうか？

海外の方が、日本に観光に来て、
一番訪れるのは今も変わらずに京都です。

その京都を象徴する数々の場所の中でも
京都御所は圧倒的な存在感を放っています。

そんな御所が、まさか終戦後に
進駐軍の宿舎になるかもしれなかったことを、
石川氏のご本に出会うまで知りませんでした。

石川氏が命がけでお守りしてくださったからこそ、
美しい京都御所が現代に受け継がれていると思うと
尚一層、尊い場所に感じました。

日本人として、知らなければならぬことを
きちんと知る機会をいただけて、
本当に有り難く思います。

さて、次回も石川氏の軌跡を
引き続きご紹介させていただきたいと思います。

配信は、9月9日(水)です。
皆様、どうぞお楽しみにお待ちください☆

☆後 記☆

明日30日は会津若松市へ。
翌日31日は福島市の教育長室で、
スターリィマン紙芝居の贈呈式を行います。

そして、9月1日からは、
私たちの活動をご支援くださっている
神戸のお寺のご住職さま6名と一緒に、
名取市と南三陸町を回らせていただきます。

名取市では、紙芝居プロジェクトを立ち上げてくださった
藤原奈央子さんと合流します。

神戸の皆様と東北にお伺いさせていただくことになるとは、
2011年の時には想像もしていませんでした。

今回もまたたくさんの素敵な出会いが待っていることでしょう。
皆様に支えられて、活動を続けることが出来、
あらためて感謝でいっぱいです。

それから、今週から遂に私もFacebookを始めました。

早速、お友だちになってくださったり、
メッセージをお送りいただきました皆様、
どうもありがとうございました！

まだ記事を投稿するまで覚えられていませんが、
少しずつチャレンジしていきたいと思います。

もし宜しければ、「Yoshimi Hasegawa」で検索してください☆

それでは、猛暑の夏もいつのまにか秋の風になっています。
皆様、体調にお気をつけてお過ごしくださいね。

本日も最後までお読みいただきまして、
誠にありがとうございました。

はせがわ芳見

☆はせがわ芳見 ブログ☆

blog : <http://starryman.cocolog-nifty.com/blog/>

発信元：はせがわ芳見

〒330-0851 埼玉県さいたま市大宮区櫛引町1-422-2

TEL/FAX：048-671-7708

HP : <http://www.dream-hasegawa.com>

blog : <http://starryman.cocolog-nifty.com/blog/>

★*...—————...*★

メールマガジンで語り伝える

「今を生きるスターリィマンの物語」～感謝の風船レター～

2015.9.9 vol.70

★*...—————...*★

☆ご あ い さ つ☆

9月入り、雨の多い日が続いておりますが、
皆様、お変わりございませんか？

さて、本日9月9日は重陽の節句。
そして、このメールマガジンの配信をスタートして、
ちょうど丸2年となりました。

この間、メールマガジンの発信数は70回となり、
私が出会った24名の「スターリィマン」の皆様を
ご紹介させていただきました。

これまで温かな応援を送り続けてくださった皆様、
本当にどうもありがとうございます！

さて、そんな節目となる本日のメールマガジンは、
戦後70年の特別編の最終章となりました。

前々回の第1章は、8月15日・終戦の日の前日に、
天皇陛下の玉音放送の録音盤を
命がけでお守りしたお話をご紹介させていただきました。

そして、前回の第2章は、戦後のアメリカの進駐軍より、
京都御所をお守りしたお話をご紹介させて頂きました。

本日の第3章の最終章は、戦後まもなく葵祭の復活に
ご尽力されたお話をご紹介させていただきたいと思います。

是非、最後までお読みいただけましたらとても嬉しいです。

★*...—————...*★

戦後70年・特別編

第23話「今を生きるスターリィマンの物語」第3章

～戦中・戦後を宮内庁一筋60年に生きた石川忠氏の軌跡～

★*...—————...*★

昭和27年。

石川氏は、宮内庁京都事務所長に命ぜられました。

そして着任してまもなく、それまで戦争で途絶えていた
葵祭を復活させる計画を練りました。

「新緑に囲まれた白砂の社頭で、
昔ながらの束帯姿の大宮人どもの奉幣の神事は、
ゆかしくもみやびやかな一幅の大和絵を見るようである。

戦災は免れたものの、人々の心は荒廃し、
生活も困窮をきわめている。

こんな時に、人々に夢と希望を与えられるような
イベントを企画すれば、潤いがもたらせるのではないか。

ここはひとつ、国と宮内庁に相談し、
京都庶民の強い支持もある葵祭を復活させてはどうだろうか。

幸いにも、京都には、また御所には、イベントを復活できる
資料もたくさん保存されている。

このイベントが実現できれば、少なくとも庶民の心が結集でき、
国の再建と活性化に向け側面からフォローできることに結びつかないか？」

当時の社会情勢、経済環境等を考えると、
壮大なイベントであった。

また、戦後の荒廃とドサクサの中、
人々は日々食うことにのみ追われ
明日のことを考える余裕などなかったのも事実である。

戦後も8年がたってやや落ち着きを取り戻してきたと言うものの、
物不足の状況は依然として、解決されませんでした。

「朝鮮戦争が始まって、日本経済は特需に沸き、
やや立ち直りの兆しを見せ始めるのですが、
精神文化は壊滅的状况から、なかなか抜け出せずにいました。

このままでは生活の糧を得られても、心の糧は得られない。
日本古来の精神文化が消滅してしまうという危機感を抱き、
私の仕事の身辺を見回したら葵祭があったんです。

それに気づいた時は、本当に“これだ！これで救われる！”
という感動が全身にみなぎりました」

石川氏が葵祭の歴史を詳しく調べてみると、
葵祭も時代によって盛衰があり、
応仁の乱以後は皇室の衰微のため
二百数十年間も中断していました。

第百十三代東山天皇の元禄年（1694年）再興されたが、
明治4年に再び中断。明治17年（1884年）岩倉具視によって
旧儀のごとく再興され、5月15日を葵の日と定められました。

その後、第二次世界大戦のため、昭和18年（1943年）から
行列は不可能となっていたでした。

平和とともに、昭和28年（1953年）から、民間に盛り上がり、
葵祭行列協議会によって、本列（勅使大列）が
往時の盛儀を復活させ、京都を代表する祭として、
国内外の行政府、観光客らにアピールするようになりました。

石川氏はこう言います。

「今日の葵祭の一番の見どころは、
平安の昔を今に移したような行列を構成する人々の装束や
牛車、飾り馬、風流な花傘など、色彩的な服飾の美しさにある」

こうして、石川氏の願いであった葵祭は再興となり、
葵祭の再興を機会に石川氏は伝統文化の継承にも尽力を注ぎました。

昭和31年8月、「財団法人伝統文化保存協会」を創立し、
日本の文化を後世に伝承して行くこととなりました。

優れた日本の文化は、日本人が日本人であることの精神的支柱であると全力で関係機関に働きかけてのことでした。

その後も、石川氏は「文化の建設・改革人」と称する数々の事業を成している。すべて、京都に定着させました。

『宮内庁一筋60年 石川忠先生の軌跡』のご本には、他にも石川氏の偉業となる業績が、数えきれないほど記載されています。

そのひとつひとつは、石川忠氏の日本を想い、日本を愛するその真心がすべての偉業へつながっています。

日本帝国から、日本に大きく変動する時になくてはならない人物だったのだと思いました。

「今を生きるスターリマンの物語」
☆次回の配信まで一ヶ月間のお休みをいただきます☆

戦後70年・特別編の第3章は、いかがでしたでしょうか？

「戦後の人々の心は荒廃し、生活も困窮をきわめている。
こんな時に、人々に夢と希望を与えられるようなイベントを企画すれば、潤いがもたらせる」

生活の糧と共に心の糧をと、
葵祭を再興された石川氏は、
まさに日本を愛し、日本人のとしての誇りを
今に伝えるスターリマンそのものでした。

宮内庁京都事務所長の25年間には、
戦後の急速な高度経済成長した日本の姿を東京で
千数百年以上に及ぶ歴史と伝統文化を保持し、
日本人の精神が生きている京都での
国賓をお迎えしての、接待外交をされた数は、
宿泊14組、滞在21組に及んだといいます。

そして、2009年8月12日 石川忠氏は
101歳の生涯を終えられました。

葬儀の日、愛する京都の大文字の光に見送られながら...
最後まで、日本の行く末を日本を憂い、案じながら、
天のお星様になられました。

それからは、きっと、今を生きる私たちを
夜空から見守り、導いてくださっていることと思います。

この一冊のご本を石川氏の3女の牧子さんからいただいてから、
いつか皆様に、石川忠氏のことをお伝えしたいと願っていました。

戦後70年という年に、ご紹介させていただきましたこと。
本当に感謝でいっぱいです。

いつの世も争いのない平和を人々は祈ってきました。
しかし、無くなることはありません。
それどころか、平和の心である仁の心である、
思いやりの心は薄らいでいるばかりです。

今起きている様々な出来事、思いやりの平和の心を
ひとりひとりがつないでいけば、解決できることは
どんなに多い事かを感じるにはられません。

私は、スターリィマンの作品の創作や活動を通して、
世界中が家族のような温かい愛（きずな）で結ばれる社会を目指して、
小さい一歩一歩を重ねながら、休まずに、
これからも誠心誠意をこめて一生懸命にスターリィマンの9つの風船を
届けながらつないで参りたいと思っています。

さて、次回の配信ですが、
しばらく作品の創作に集中させていただきたく思い、
メールマガの発信は、1ヶ月ほどお休みさせていただきます。

その間、活動やイベントなどのご報告は
Facebookやブログ、HPでお伝えさせていただきたいと思いますので、
今後ともどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

☆後 記☆

8月29日から9月3日まで行った東北での活動も、
たくさんの出会いと感動に満ちた
素晴らしい時間となりました。

もうすぐ震災から4年半。5年目を迎えるにあたり、
今、次への一步を共に踏み出せるような何かをと、
被災地の方々と色々とアイデアを出し合っています。

また皆様とこのメールマガジンでお会い出来る日まで、
精一杯がんばりたいと思いますので、
今後とも温かな応援をいただけますと幸いです。

それでは、本日も最後までお読みいただきまして、
本当にありがとうございました！

台風などで雨が降り、肌寒い日が続きますが、
どうかお元気でお過ごしくださいませ。

9月9日に心からの感謝を込めまして☆

はせがわ芳見

☆はせがわ芳見 ブログ☆

blog : <http://starryman.cocolog-nifty.com/blog/>

発信元：はせがわ芳見

〒330-0851 埼玉県さいたま市大宮区櫛引町1-422-2

TEL/FAX：048-671-7708

HP : <http://www.dream-hasegawa.com>

blog : <http://starryman.cocolog-nifty.com/blog/>
